

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2005-038779

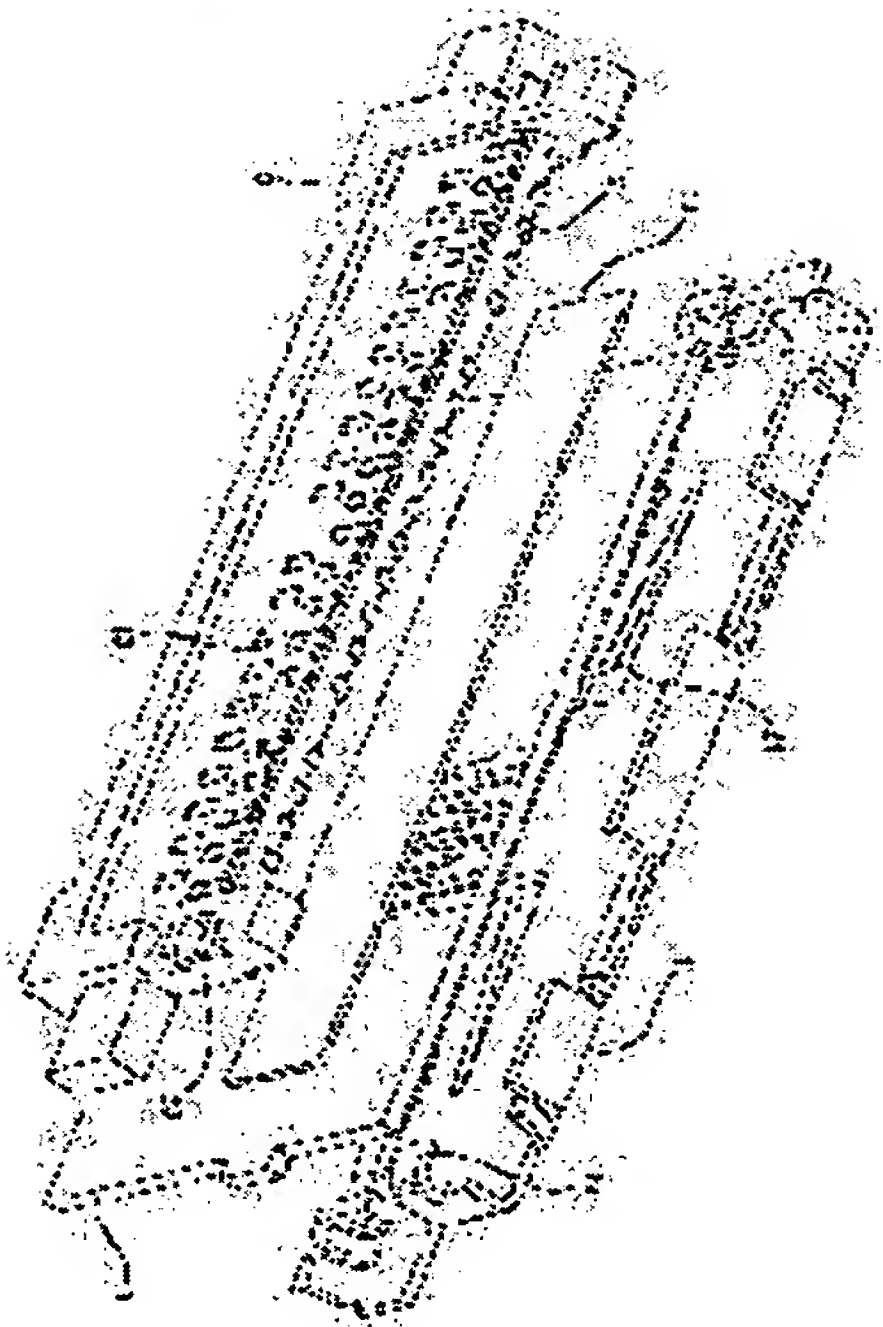
(43)Date of publication of application : 10.02.2005

(51)Int.Cl. H01R 12/04
H01R 12/18
H01R 24/08

(21)Application number : 2003-276353 (71)Applicant : FCI ASIA
TECHNOLOGY
PTE LTD

(22)Date of filing : 17.07.2003 (72)Inventor : SHINDO
HIDEHIRO

(54) CONNECTOR



(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a connector in which contacts can be arranged in a high density and small sizing of the connector can be realized.

SOLUTION: This is an electric connector which is made of a first housing and a second housing and the first housing has a contacting part formed separately, and the one end part of the contacting part contacts an anisotropy conductive film, and the other end part contacts a terminal provided in

the second housing, thereby, making electrical connection. Furthermore, this is a second connector which is made of a housing fixed to a substrate and the housing has a contact and

the contact is arranged in mutually inverted relation with respect to the adjoining contact.

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号
特開2005-38779
(P2005-38779A)

(43) 公開日 平成17年2月10日(2005.2.10)

(51) Int. Cl. ⁷	F I	テーマコード (参考)
HO 1 R 12/04	HO 1 R 9/09	5 E 0 2 3
HO 1 R 12/18	HO 1 R 23/70	5 E 0 7 7
HO 1 R 24/08	HO 1 R 23/02	K

審査請求 有 請求項の数 8 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 (22) 出願日	特願2003-276353 (P2003-276353) 平成15年7月17日 (2003.7.17)	(71) 出願人 501189174 エフシーアイ アジア テクノロジー ピー ティーイー リミテッド シンガポール 089315 ホー チャ ン ロード 10, コッペル タワーズ 18-00号 (74) 代理人 100109726 弁理士 園田 吉隆 (74) 代理人 100101199 弁理士 小林 義教 (72) 発明者 進藤 英博 東京都江東区東雲2丁目6-25 グラン ドイースト314号
		最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 コネクタ

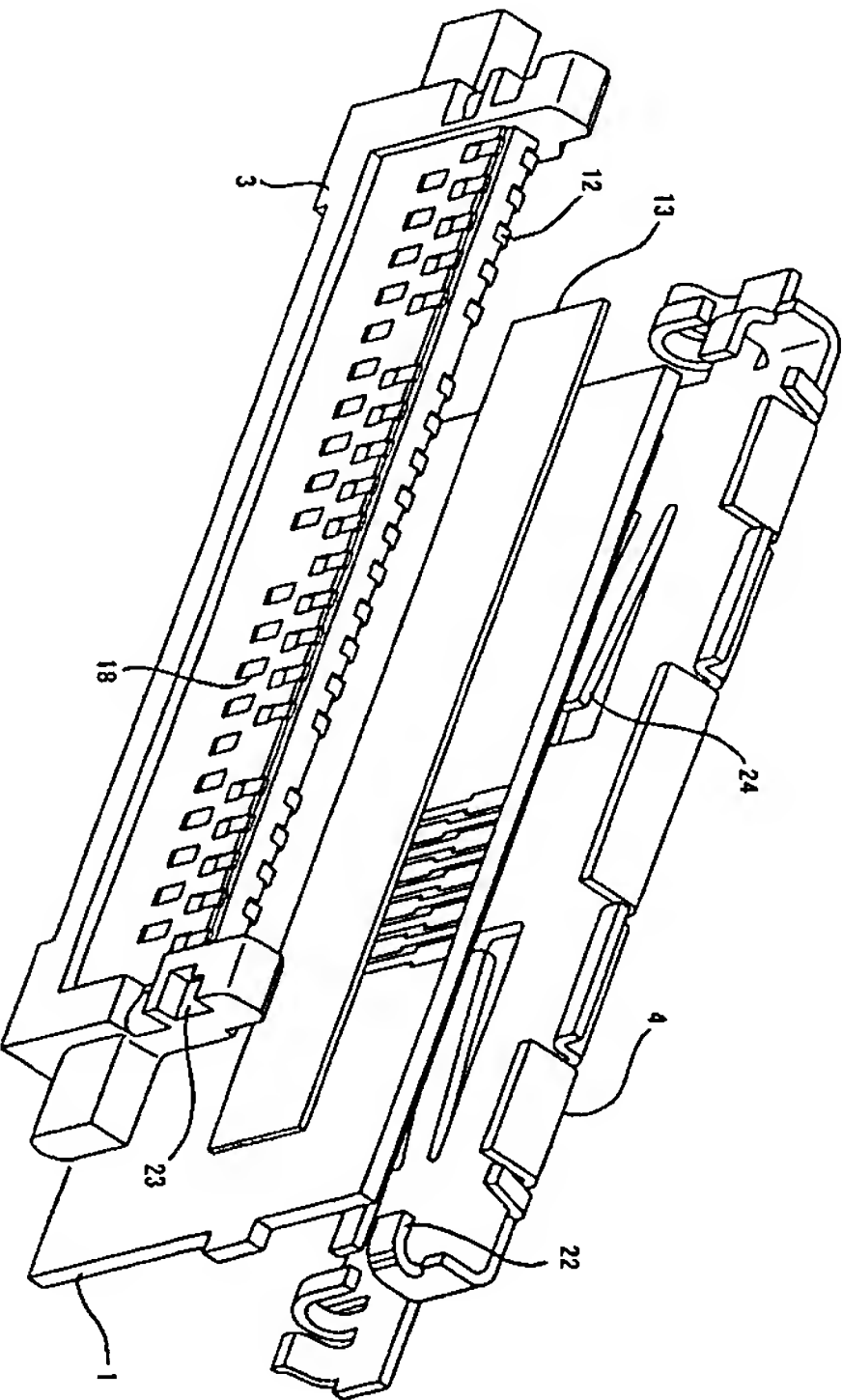
(57) 【要約】

【課題】 より高密度にコンタクトを配置し、さらにコネクタの小型化を実現するコネクタを提供する。

【解決手段】

電気コネクタであって、第1ハウジングと第2ハウジングからなり、該第1ハウジングは別体で形成された接触部を有し、該接触部の一方の端部は異方性導電フィルムと接触し、他方の端部は第2のハウジングに設けられた端子と接触することで電氣的接続を図るコネクタを提供する。さらに基板に固定される第2ハウジングであって、該ハウジングはコンタクトを有し該コンタクトは隣接するコンタクトと互いに倒置の關係に配置される第2コネクタを提供する。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

電気コネクタであって、第 1 ハウジングと第 2 ハウジングからなり、該第 1 ハウジングは接触部を有し、該接触部の一方の端部は異方性導電フィルムと接触し、他方の端部は第 2 のハウジングに設けられた端子と接触することで電氣的接続を図るコネクタ。

【請求項 2】

前記接触部は別体で形成される請求項 1 に記載のコネクタ。

【請求項 3】

前記第 1 ハウジングは前記接触部が収容される貫通口を有する請求項 1 又は 2 に記載のコネクタ。

10

【請求項 4】

前記貫通口は千鳥状に配置される請求項 1 ないし 3 のいずれかに記載のコネクタ。

【請求項 5】

前記第 1 ハウジングは導電性シェルを有し、該シェルは前記異方性導電フィルムと接触する導体のシールド部と接続する請求項 1 ないし 4 のいずれかに記載のコネクタ。

【請求項 6】

第 1 コネクタは第 2 コネクタと嵌合する凹部または凸部を有する請求項 1 ないし 5 のいずれかに記載のコネクタ。

【請求項 7】

基板に固定される第 2 ハウジングであって、該ハウジングはコンタクトを有し該コンタクトは隣接するコンタクトと互いに倒置の関係に配置される第 2 コネクタ。

20

【請求項 8】

第 2 コネクタは第 1 コネクタが挿入される方向に対して少なくとも 1 つの端に、第 1 コネクタと係合するための係合部を有している請求項 7 に記載のコネクタ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は電気コネクタであって、特にフラットケーブル等の電氣的接続に用いるコネクタに関するものである。

【背景技術】

30

【0002】

従来、電気コネクタに関してはコンタクト等の高密度配置や嵌合の容易性など、より小型で容易に嵌合できる構造が望まれている。特に近年では携帯電話等に代表されるモバイル機器の普及に伴いより小型で高密度のコンタクトが配置できるコネクタが必要とされている。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

しかしながら従来はコネクタの小型化に際しコンタクトの占有面積等の制約から、携帯機器等に使用可能な小さなサイズのコネクタのさらなる小型化は困難であった。

40

【課題を解決するための手段】

【0004】

上述の問題に鑑み、本発明は電気コネクタであって、第 1 ハウジングと第 2 ハウジングからなり、該第 1 ハウジングは接触部を有し、該接触部の一方の端部は異方性導電フィルムと接触し、他方の端部は第 2 のハウジングに設けられた端子と接触することで電氣的接続を図るコネクタを提供する。この構造によって、より高密度に配置したコンタクトに対して確実な電気接続を実現することができる。

【0005】

また前記第 1 ハウジングには別体で形成される前記接触部が収容される貫通口を有し、該貫通口が千鳥状に配置されているコネクタを提供する。この構造によれば第 1 ハウジン

50

グの貫通口に別体の接触部を収容するため、該貫通口及び接触部をより小さく形成することによって高密度に配置したコンタクト及びケーブルを確実に電氣的に接続することができる。さらに該貫通口が千鳥状に配置しているため、コンタクトの高密度配置が可能となる。

【0006】

前記第1ハウジングは導電性シェルを有し、該シェルは前記異方性導電フィルムと接触する導体のシールド部と接続するコネクタを提供する。該シェルの作用により、EMI等の環境下でも確実な信号伝送を行うことができる。

【0007】

さらに第1コネクタは第2コネクタと嵌合する凹部または凸部を有しており、これはコネクタの誤嵌合を防止する突起または該突起を受容するくぼみである。また基板に固定される第2ハウジングはコンタクトを有しており、該コンタクトは隣接するコンタクトと互いに倒置の關係に配置される第2コネクタを提供する。コンタクトを互いに反対向きに配置することによって千鳥状に配置した前記接触部と接触させることができる。

【0008】

当該コネクタはさらに、第2コネクタは少なくとも1つの端に、第1コネクタと係合するための係合部を有している。このことによって振動等によって嵌合がはずれるのを防止することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0009】

本発明の実施例を以下に図を用いて説明する。図1は本発明のコネクタの第1コネクタの分解斜視図である。図に示したように第1ハウジング(3)に異方性導電フィルム(13)を介して例えばFPC等のケーブル(1)が該第1ハウジングに接続し、さらに導電性シェル(4)がこれら異方性導電フィルム(13)及びケーブル(1)を内包するように第1ハウジング(3)に取り付けられる。この異方性導電フィルム(13)には両面又は片面に粘着剤を塗布し固定することができる。該フィルムの面全体に塗布する場合は、該粘着剤が導電性を有することは当業者には明らかである。該導電性シェル(4)にはケーブル(1)又は異方性導電フィルム(13)を押圧するための押圧部材(24)が形成されている。異方性導電フィルムは圧力のかからない状態では絶縁性を示すが、フィルムに対して圧力がかかると該圧力の方向に導電性を示すことが特徴である。したがって該押圧部材(24)がケーブル(1)又は異方性導電フィルム(13)を押圧することによって該フィルムに電氣的な導通領域が形成される。このように異方性導電フィルムを用いることにより、特にコネクタの端部近傍においてケーブル(1)と接触部(12)の相対的な配置に僅かのずれがあった場合でも、異方性導電フィルム(13)がこの領域に少しでも存在していれば電氣的に導通させることができる。このような点から本発明のコネクタは該異方性導電フィルムを使用することによってコネクタをより小型化することができる。したがってコンタクトを高密度に配置しさらに接触部を小さく形成することで高い接続の精度を要求される場合においても本発明は有効である。また第1ハウジングには貫通口(18)が形成されており、該貫通口に接触部(12)が収容されている。また該貫通口(18)の開口部周辺にはテーパがかけられておりこれによって嵌合する際コンタクトの位置決めを確実にし、またコンタクトが円滑に接触部(12)に当接できる効果を有する。

【0010】

同図によると、導電性シェル(4)は第1ハウジング(3)と係合するシェル係合部(22)を有しており、第1ハウジング(3)に形成されたシェル係合部受容部(23)に該シェル係合部(22)が係合する。これによって導電性シェル(4)が確実に第1ハウジングと係合し、さらに該導電性シェルの押圧部材(24)がケーブル(1)と異方性導電フィルム(13)を押圧する。このとき押圧部材(24)は該異方性導電フィルム(13)が導電性を示すのに必要な圧力を発生させる。このとき、例えばここでは図5で示したように接触部(12)の上面(14)は第1ハウジング上面(26)から突出しており

押圧部材（２４）の押圧力により接触部の上面（１４）とケーブルの導体（２）の間のみ圧力がかかる。したがってこの領域は導電性を有する。一方、第１ハウジング上面（２６）とケーブルの導体（２）の間は導電性を有するだけの圧力がかからないため絶縁される。この結果接触部（１２）とケーブルの導体（２）間のみ電氣的な接続が可能となる。

【００１１】

次に第１ハウジング及び該ハウジングに收容される接触部について説明する。本発明のコネクタは第１ハウジングに接触部を收容する貫通口を有しており、ハウジングの上面及び下面間を電氣的に導通させるものである。図２（ａ）に接触部（１２）を、図２（ｂ）に第１ハウジング（３）をそれぞれ示した。接触部（１２）は第１ハウジングの貫通口（１８）に挿入された際、貫通口（１８）の内壁と係合し固定されるように接触部係合部（２５）を有している。該接触部（１２）は第１ハウジングの上面側つまりケーブルの導体が接触する側の長さが、下面側すなわち第２ハウジングのコンタクトと接触する側の長さより長くなっている。しかしながら接触部（１２）の形状はこれに限定されるものではない。第１ハウジング（３）には接触部（１２）を收容できる大きさの貫通口（１８）が千鳥状に配置されている。また前記記載のように該貫通口（１８）の開口部周辺にはテーパが設けられている。またテーパのみならず段差でも良い。これによってコネクタの嵌合の際対応するコンタクトの位置決めができる。

【００１２】

次に該コネクタの嵌合の工程を説明する。図３（ａ）及び（ｂ）に示したように第１コネクタ（５）は第２コネクタ（８）のコンタクトが露出している側から挿入される。（ａ）に示したように最初に第１ハウジングの突起（１０）が第２ハウジング（２１）の対応する開口部（１１）に挿入され、その後第１コネクタ（５）を第２コネクタ（８）に押し込んで嵌合させる。さらに同図（ｂ）に示したように、導電性シェル（４）の係合部（７）と第２ハウジングの係合部（９）が係合する。また係合した際、第２ハウジングの係合部（９）は導電性シェルの係合部（７）を部分的に覆う構造となっている。このことによって振動あるいは衝撃等で係合が解除されるのを防止することができる。本実施例において導電性シェルを用いない場合でも動作は同様である。

【００１３】

また本発明のコネクタは、嵌合の際コネクタの位置決めを容易にし、確実に嵌合できる構造を有している。図４にその実施例を示した。図４は図３（ｂ）の断面図である。図によると第１ハウジング（３）には位置決め用凹部（２０）が形成され、該凹部に收容される位置決め用凸部（１９）が第２ハウジング（２１）に形成されている。第１及び第２コネクタが互いに嵌合したとき、該凸部（１９）が該凹部（２０）内に收容される。これによってコネクタの位置決めができ、例えば嵌合の際の「ぶれ」等の動きを規制することができる。しかしながら本実施例はこれに限定されるものではなく前記凹部及び凸部は逆に形成されても良い。つまり第１ハウジング（３）側に凸部が形成され、第２ハウジング（２１）側に凹部が形成されても良い。

【００１４】

最後にコネクタの嵌合後の断面図を図５に示した。本図において第２ハウジング（２１）の位置決め用の凸部（１９）が第１ハウジング（３）の対応する前記凹部（２０）に收容されている。またコンタクト（１６）、（１７）は互いに反対向き、つまり倒置されており接触部（１２）の下面（１５）に接触している。また該接触部（１２）の上面（１４）は異方性導電フィルム（１３）と接触している。

【００１５】

本発明のコネクタは第１ハウジングの上面と下面とを電氣的に接続するために別体で形成された接触部を、該第１ハウジングの貫通口に挿入することによって実現させるものである。このため接触部を小さく形成すればより高密度なコネクタを製造することができる。さらに、異方性導電フィルムを使用することにより高精度の電氣的接続を可能にする。また、上記記載のようにコンタクトを高密度化させることから、嵌合の際確実に電氣的な

10

20

30

40

50

接続を達成しなければならないが、本発明はこれを実現するために第1及び第2ハウジングに位置決め用凹部及び凸部を形成し、また第1ハウジングの貫通口の開口部周辺にテーパあるいは段差等を形成することにより、コンタクトと接触部を確実に接触させることができる。また第1コネクタの係合部である第1ハウジング又は導電性シェルの係合部に対し、第2ハウジングの係合部が該第1ハウジングの係合部を部分的に覆う構造とすることで振動、衝撃等が加えられても係合を保つことができる。

【図面の簡単な説明】

【0016】

【図1】図1は本発明の第1コネクタの分解斜視図である。

【図2】図2(a)及び(b)は本発明の第1ハウジングと、該ハウジングに挿入される接触部の斜視図である。 10

【図3】図3(a)は本発明の第1コネクタ、第2コネクタを嵌合させる前の状態を示した図である。(b)は嵌合させるときの図である。

【図4】図4は第1及び第2コネクタが嵌合したときの断面図である。

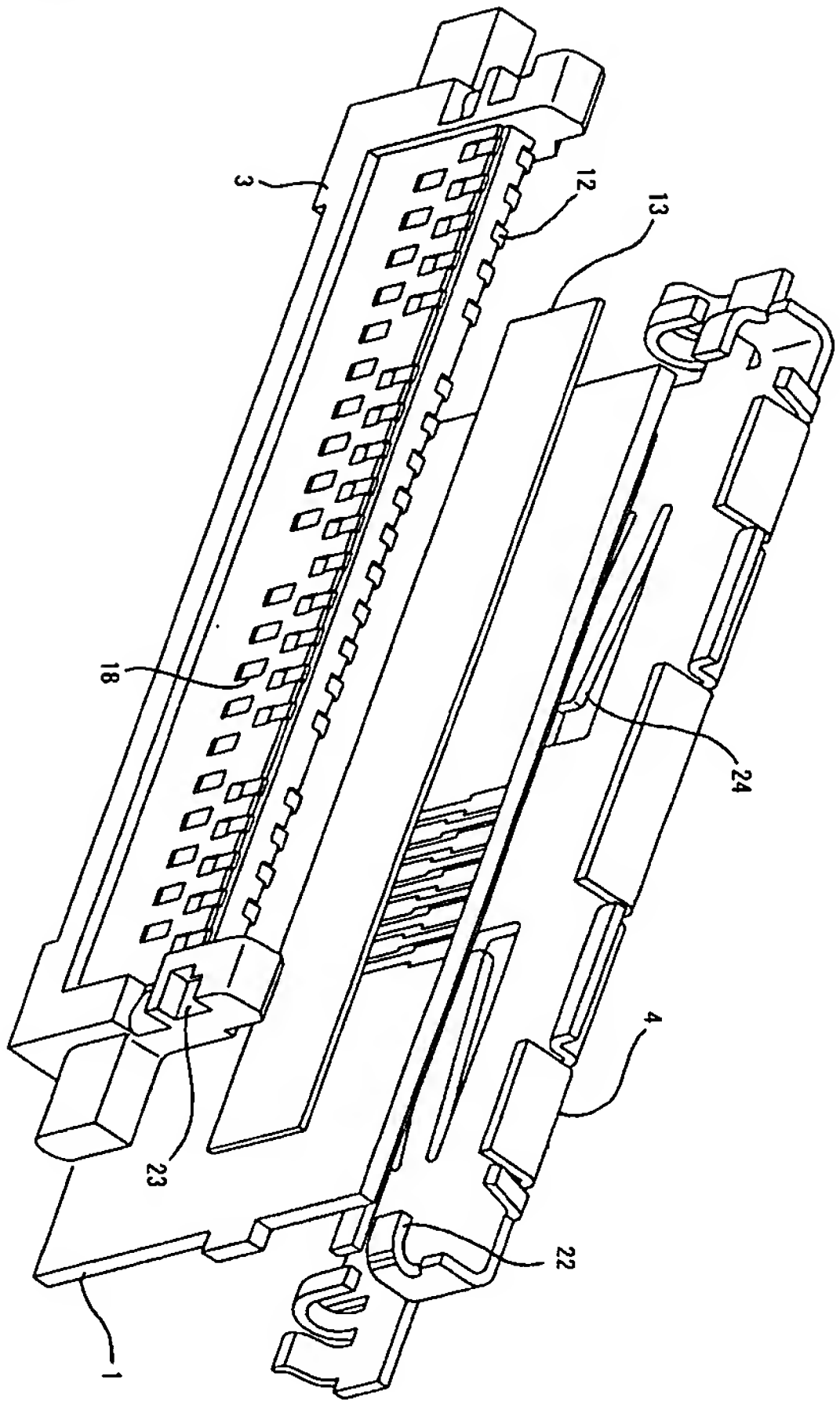
【図5】図5は図3(b)の状態の断面図である。

【符号の説明】

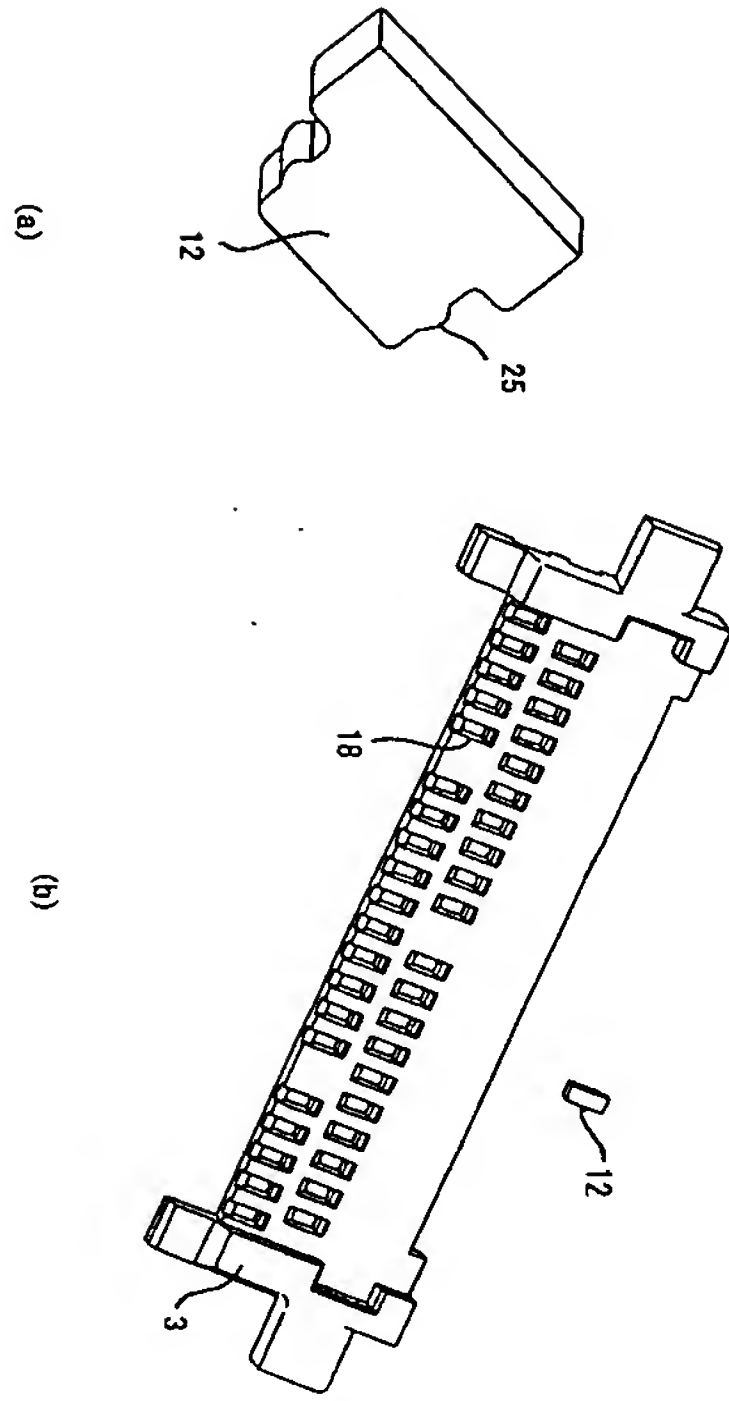
【0017】

- | | | |
|----|-------------|----|
| 1 | ケーブル | |
| 2 | ケーブルの導体 | |
| 3 | 第1ハウジング | 20 |
| 4 | 導電性シェル | |
| 5 | 第1コネクタ | |
| 6 | 第1ハウジングの係合部 | |
| 7 | 導電性シェルの係合部 | |
| 8 | 第2コネクタ | |
| 9 | 第2ハウジングの係合部 | |
| 10 | 第1ハウジングの突起 | |
| 11 | 第2ハウジングの開口部 | |
| 12 | 接触部 | |
| 13 | 異方性導電フィルム | 30 |
| 14 | 接触部の上面 | |
| 15 | 接触部の下面 | |
| 16 | コンタクト | |
| 18 | 貫通口 | |
| 19 | 位置決め用凸部 | |
| 20 | 位置決め用凹部 | |
| 21 | 第2ハウジング | |
| 22 | シェル係合部 | |
| 23 | シェル係合部受容部 | |
| 24 | 押圧部材 | 40 |
| 25 | 接触部係合部 | |
| 26 | ハウジング上面 | |

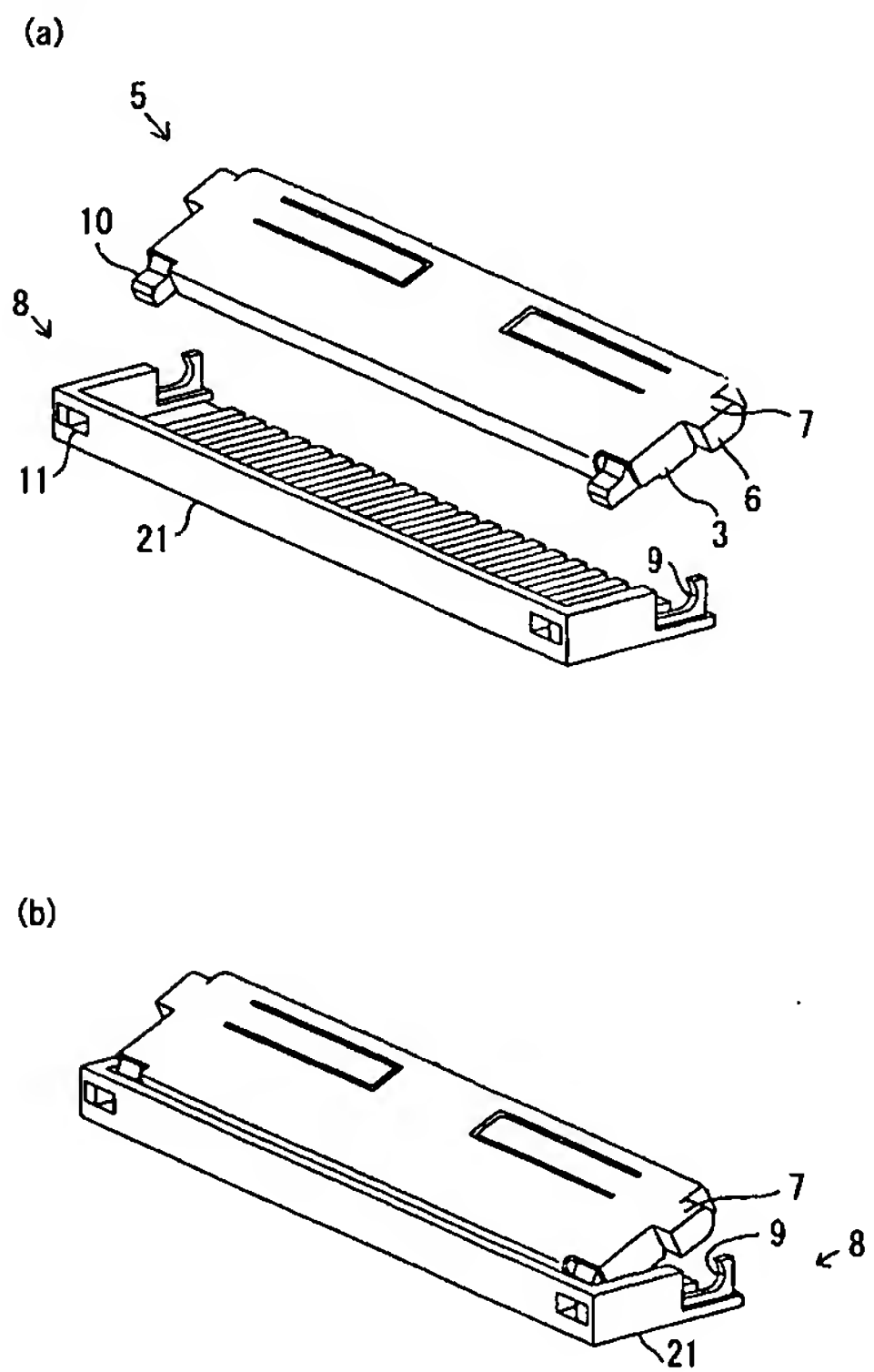
【図 1】



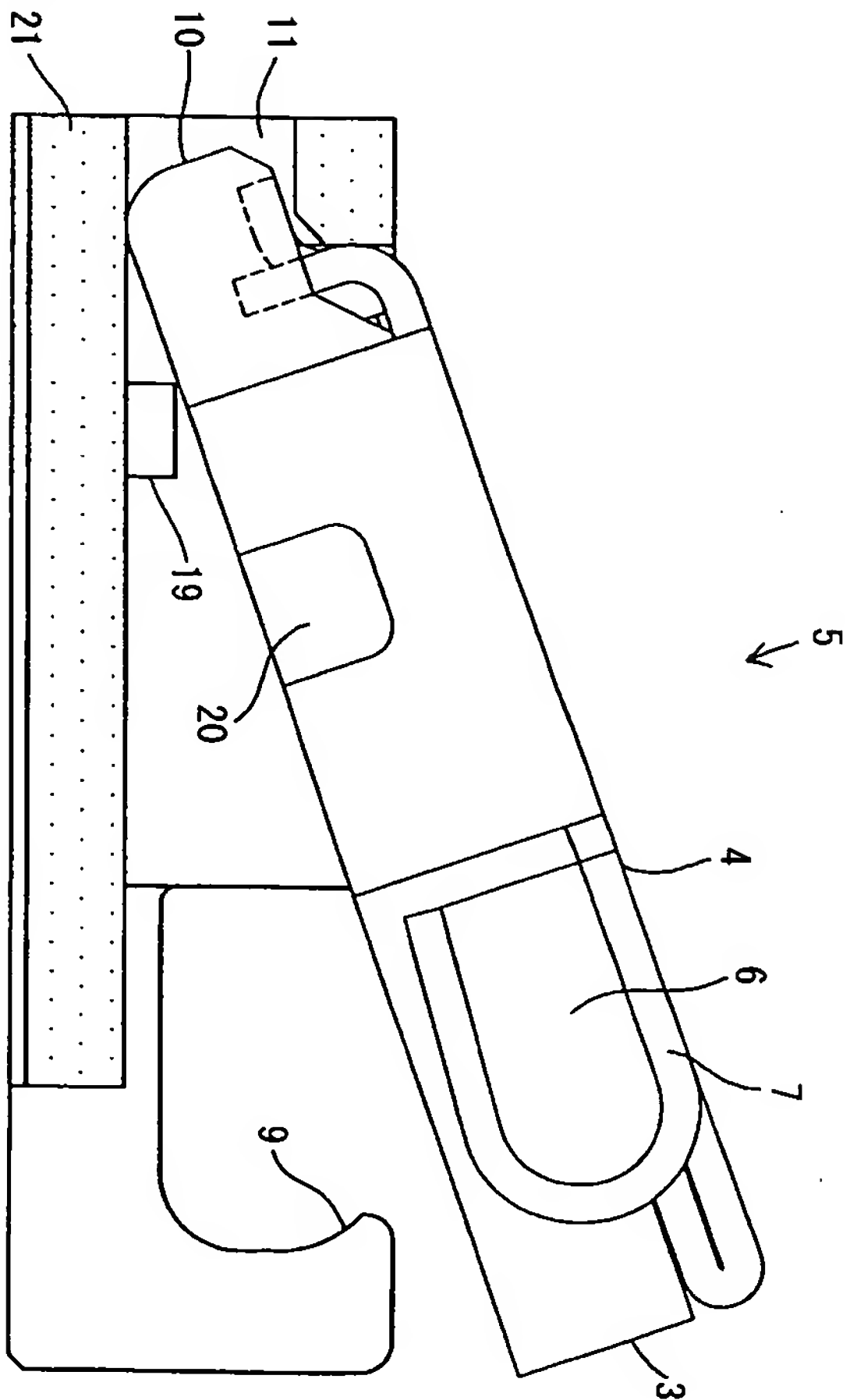
【図 2】



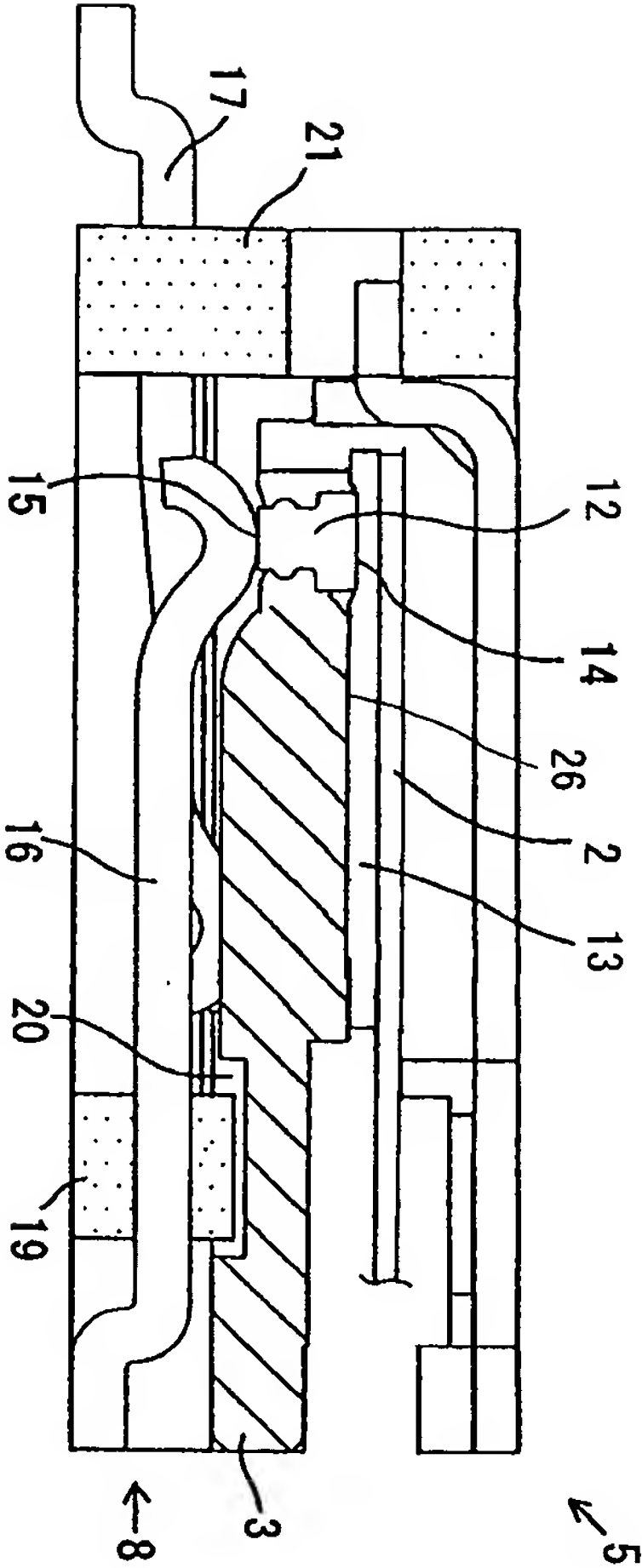
【図 3】



【図 4】



【図 5】



フロントページの続き

F ターム(参考) 5E023 AA04 AA05 AA16 AA24 BB02 BB22 BB23 BB25 CC23 CC26
DD06 DD25 DD28 EE01 EE10 EE29 GG02 GG10 GG15 HH06
HH07 HH12 HH25
5E077 BB23 BB32 CC09 CC23 CC26 DD17 EE05 FF12 GG08 GG10
HH07 JJ17 JJ23 JJ24